ノ機關トシテハ市長ノ命ヲ承ケ區内ニ於ケル市ノ事務ヲ掌リ、國府縣其ノ他ノ機關トシテハ各監督官廳ノ指揮監督ヲ承ケ法令ニ依リ委任セラレタル事務ヲ擔任ス(市制第九十八條)。三大都市ニ在リテハ戸籍事務、衆議院議員選擧事務ノ如ク普通ノ市町村ニ於テ市町村長ニ委任セラルル國ノ事務ハ多ク區長ニ委任セラル。又三大都市ノ市長ハ市自治體ノ事務タルト其ノ他ヨリ委任セラレタル事務タルトヲ問ハス、其ノ事務ノ一部ヲ自治區ノ區長ニ分掌セシムルコトヲ得(市制第九十四條第二項)。區ニハ區長ノ外其ノ補助機關トシテハ收入役其ノ他ノ有給吏員ヲ置ク。何レモ市吏員タル性質ヲ有シ、市長之ヲ任免ス(市制第八十一條及第八十六條)。

次ニ自治區ノ固有事務トシテハ財産及營造物ニ關スル事務ニ限リ、其ノ委任事務トシテ法令ニ依リ委任セラレタルモノハ小學校ノ設立ノ如キ僅少ノ例アルニ過キス。而シテ自治區ハ市ノ如ク條例及規則ヲ制定シ租稅ヲ課シ公債ヲ起スノ權能ヲ有セス。從テ區ノ營造物ニ付條例又ハ規則ヲ必要トスルトキハ市ノ條例又ハ規則ヲ以テスヘク、區ハ市條例ノ定ムル所ニ依リ區ノ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ過料ヲ科スルコトヲ得ルモノトス(市制町村制施行令第六十九條)。區

ノ經費ハ其ノ財産ヨリ生スル收入及營造物ノ使用料ノ外ハ市之ヲ負擔シ、市稅トシテ區内ノ市民ヨリ賦課徵收ス但シ區ノ經費ニ充テラルル市稅ニ付テハ市會ニ代リ區會自ラ之ヲ議決スルコトヲ得ルモノトス。

(乙) 財産區

財産區トハ市制第六條ノ市以外ノ市及町村ニ於テ市制又ハ町村制施行前ヨリ一定ノ財産又ハ營造物ヲ有シタルカ爲ニ特ニ其ノ財産權ノ主體タル資格ヲ認メラルルモノナリ(市制第百四十四條及町村制第百二十四條)。而モ財産區ハ唯從來享有シ居タル財産又ハ其ノ施設シ置キタル營造物ニ付之カ維持管理及處分ノ權能ヲ有シ其ノ果實又ハ收益ヲ取得シ得ルニ止マリ、自治區ノ如ク新ニ財産ヲ取得シ又ハ營造物ヲ設置シ得ヘキモノニ非ス。而シテ財産區ニハ特別ノ機關ヲ置カスシテ市町村會及市町村長ニ於テ處理スルヲ原則トシ、唯府縣知事ニ於テ必要アリト認ムルトキ一定ノ方法ニ依リ區會又ハ區總會ヲ設ケ得ルニ過キス(市制第百四十五條及町村制第百二十五條)。財産區ニ屬スル財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ之ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨スル外市町村稅トシテ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル

學區

區內ノ市町村民ヲシテ之ヲ負擔セシム（市制第百四十四條第二項及町村制第百二十四條第二項）。

（丙）學區

學區トハ自己ノ費用ヲ以テ尋常小學校ヲ設立スルカ爲ニ認メラルル法人ニシテ地方學事通則（第一條、附則）及小學校令（第十一條）ニ依リ一市町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ府縣知事ニ於テ關係市町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ設置シ又ハ之ヲ廢止スルモノナリ。其ノ法人格ヲ有スルヤ否ニ付テハ議論アリシ所ナリト雖モ明治三十八年勅令第百五十九號ハ之ヲ公共團體ノ一ニ算ヘタリ。而シテ學區ニハ特別ノ機關ヲ置カス、唯學區カ自治區又ハ財產區ト一致シ區會ヲ有スル場合ハ該區會ニ於テ學區ニ關スル事件ヲ議決スヘク其ノ他ノ場合ニモ財產區ノ例ニ依リ區會ヲ設ケ得ルニ過キス（地方學事通則第一條及第二條）。

行政區

（丁）行政區

行政區トハ市制第六條ノ市ヲ除キタル市及町村ニ於テ處務便宜ノ爲設ケラレタル行政區劃ニシテ固ヨリ法人格ヲ有セス（市制第八十二條第一項及町村制第六十八條第一項、町村制第六十九條第一項、第四項及町村制第百二十九條第一項、第四項）。其ノ共同處理スル範圍ハ市町村又ハ町村ノ事務ノ一部ナルヲ原則トシ、唯町村組合ニ付テノミ全部ノ事務ヲ共同處理スルコトヲ得ルモノトス。前者ヲ一部事務組合、後者ヲ全部事務組合ト謂フ。全部組合カ單純ナル町村ト異ナルノ特徵ハ組合各町村カ尙法人トシテ自己ノ財產ヲ享有スルコト及組合カ解散スルトキハ各町村ハ當然分立スルコトノ二點ニ在リトス。

市町村組合及町村組合

市制第八十二條第三項ニ基キ内務大臣ニ依リ指定セラレタル名古屋市横濱市及神戸市ノ區ニ付テハ有給吏員タル區長ヲ置クモノトシ、其ノ他ノ市及町村ノ區ニ付テハ名譽職タル區長ヲ置キ市町村長ノ推薦ニ依リ市町村會之ヲ定ムルモノトス（市制第八十二條第二項乃至第四項及町村制第六十八條第二項乃至第四項）。

第二　市町村組合及町村組合

市町村組合又ハ町村組合トハ二以上ノ市町村又ハ町村カ其ノ事務ヲ共同處理スルカ爲ニ結合シタル法人ニシテ組合所屬ノ市町村又ハ町村ノ區域及住民竝所屬ノ市町村又ハ町村ヲ其ノ構成要素トス（市制第百四十九條第一項、第四項及町村制第百二十九條第一項、第四項）。

次ニ組合ノ設立ハ市町村又ハ町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スヲ原則トシ、唯公益上必要アル場合ニ於テノミ府縣知事ハ關係アル市町村會又ハ町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ設ケ得ルモノトス(市制第百四十九條第一項、第二項及町村制第百二十九條第一項、第二項、第三項)。前者ハ之ヲ任意組合ト謂ヒ、後者ハ之ヲ强制組合ト謂フ。而シテ市町村組合又ハ町村組合ニ於テハ組合規約ヲ制定スヘキモノトシ、組合規約ヲ制定シ又ハ變更スルニハ關係アル市町村若ハ町村會ノ議決ニ依リ又ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘク、公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會若ハ町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得ルモノトス(市制第百五十一條及町村制第百三十一條)。組合規約ハ法律ノ範圍內ニ於テ組合ノ組織構成ヲ定ムルモノニシテ組合ノ名稱之ヲ組織スル市町村又ハ町村、組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムルモノトシ、一部事務組合ニ付テハ更ニ組合會ノ組織、組合會議員ノ選擧、組合吏員ノ組織選任、組合費用ノ支辨方法等ヲ定ムルモノトス(市制第百五十二條及町村制第百三十二條)。

組合ノ機關ニ付テハ全部組合ニ在リテハ組合內各町村ノ町村會及町村吏員當然消滅シ、組合會及組合長其ノ他ノ組合吏員等全部町村ノ例ニ準シ選任セラルヘク、一部事務組合ニ在リテハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合會、組合長其ノ他ノ機關ヲ設クヘク、組合內各町村ノ町村會又ハ町村吏員ハ當然消滅ス(町村制第百二十九條第一項、第二項)。

次ニ市町村組合又ハ町村組合ニシテ其ノ組合市町村又ハ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係市町村若ハ關係町村ノ協議ニ依リ又ハ組合會ノ議決ヲ經テ若ハ組合會ト新加入ノ町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘク、公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會若ハ町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合市町村又ハ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(市制第百五十條及町村制第百三十條)。市町村組合又ハ町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係アル市町村若ハ町村ノ協議ニ依リ又ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘク、公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會若ハ町村會又ハ組合

會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ解クコトヲ得ルモノトス(市制第百五十三條及町村制第百三十三條)。尙市町村組合又ハ町村組合ノ一種ニ屬スル學校組合ハ教育事務ノ爲ニ設ケラルルモノニシテ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(地方學事通則第七條、第八條、第十條、第十四條)。

第三　府縣組合

府縣組合トハ二以上ノ府縣カ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スルカ爲ニ結合シタル法人ニシテ府縣ノ協議ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ設立スルヲ原則トシ、公益上必要アル場合ニ限リ例外トシテ內務大臣ニ於テ關係アル府縣會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設立スルコトヲ得ルモノトス(府縣制第百二十六條ノ二、第百二十六條ノ六)。府縣組合ヲ設立スル場合ニハ組合規約ヲ制定シ、組合ノ名稱、組合員タル府縣、組合ノ共同事務、組合會ノ組織、費用ノ支辨方法等ヲ定ムヘキモノニシテ組合府縣數ヲ增減シ共同事務ヲ變更スル等規約ヲ變更セムトスルトキ又ハ組合ヲ解カムトスルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ受クヘキモノトス(府縣制第百二十六條ノ三第一項、第百二十六條ノ四)但シ公益上必要アル場合ニ於テハ內務大臣ハ關係アル府

縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ解キ又ハ規約ヲ定メ若ハ變更スルコトヲ得ルモノトス(府縣制第百二十六條ノ六)。次ニ府縣組合ノ機關トシテハ組合長及組合會アリ。組合長ハ內務大臣ノ指定シタル府縣知事之ニ充リ組合事務ヲ管理スヘク(府縣制第百二十六條ノ三第二項)、組合會ノ組織ハ組合規約ニ於テ之ヲ定ムルモノトス。而シテ府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用スルモノナリ但シ參事會ハ之ヲ置カスシテ其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組合長タル府縣知事之ヲ行フ(府縣制第百二十六條ノ七)。

第七章　公共組合及營造物法人

第一　公共組合概說

公共組合トハ特定ノ目的ノ爲ニ結合スル團體員ニ依リ組織セラルル公共團體ニシテ地方團體ノ如ク一定ノ地域ヲ構成要素トセサルカ故ニ其ノ自治權ハ唯人的ニ組合員ニ對シ行ハルルニ過キス但シ稀有ノ例トシテハ組合カ組合員以外ノ者ニ對シ命令强制權ヲ有スルコトアリ(水利組合法第四十九條、第五十條、第五十三條、第五十六

公共組合ノ種類

條)。而シテ公共組合カ私法上ノ社團法人ト異ナルノ特徴ハ法人ノ目的カ法律自體ニ依リ一定セラレ定款ニ依リ任意ニ定メ得サルコト、其ノ設立ニ付テハ國家意思ノ參加ヲ要スルコト、社員ノ加入及脫退ニ付當事者ノ自由ニ委セラレサルコト其ノ經費ノ徵收ニ付强制徵收方法ヲ認メラルルコト及其ノ目的ノ遂行ニ付國家ノ特別ノ監督ニ服スルコトノ五點ニ存ス。

公共組合ハ其ノ設立ニ付組合員タルヘキ者ノ意思ノ參加スルヤ否及參加スル程度ノ如何ニ依リ强制組合及任意組合ノ三種ニ類別ス。强制組合トハ組合員タルヘキ者ノ意思如何ヲ問ハスシテ國家ノ意思ニ依リ之ヲ設立セシムルモノヲ謂ヒ、其ノ中ニハ國家自ラ設立行爲ノ全部ヲ爲シ設立ト同時ニ法上一定ノ地位ニ在ル者ハ何等ノ行爲ヲ要セス當然組合員ト爲ルモノト國家ハ一定ノ者ニ對シ組合設立ノ義務ヲ負ハシメ義務者カ設立行爲ヲ爲ササルトキ始メテ國家自ラ之ヲ設立スルモノトアリ。水利組合ハ卽チ前者ノ適例ニシテ醫師會ハ卽チ後者ノ一例ナリ。

半强制組合トハ組合員タルヘキ一部ノ者ノ意思ニ依リ組合ヲ設立スヘキ議決

ヲ爲シ其ノ作成シタル定款ニ付國家カ之ヲ認可シタル場合組合ハ成立シ、法上一定ノ地位ニ在ル者ハ當然其ノ社員ト爲ルヘキ組合ヲ指シ、耕地整理組合、森林組合、重要物產同業組合、畜產組合、水產組合、商工會議所、農會等最モ多クノ公共組合之ニ屬ス。

任意組合トハ其ノ設立カ組合員タルヘキ者ノ協議ニ委セラレ國家ハ唯之ヲ認可スルニ止マルモノニシテ二個以上ノ公共組合ノ結合ニ依ル聯合會ニ付テノミ其ノ實例ヲ見ルナリ。

公共組合ノ機關ニハ議決機關ト執行機關トノ二種存スルコト地方團體ニ同シ而シテ議決機關ノ組織ニ付テハ地方團體ト異リ組合員全員ヲ以テ之ヲ組織スルヲ原則トシ、唯之ヲ不適當トスル例外ノ場合ニ於テノミ代議制度ヲ採ルモノトシ(水利組合、重要物產同業組合ノ如シ)、稀ニハ組合員以外ノ者ヲ機關構成ニ加ハラシムルコトアリトス(商工會議所、農會、水產會ノ如シ)。又執行機關ハ組合員中ヨリ選出セラレタル組合長ヲシテ之ニ充ツルヲ原則トシ、特別ノ必要アル場合例外トシテ國ノ官吏又ハ地方自治團體ノ吏員ヲシテ管理者タラシムルモノトス(水利組合

ノ如シ)。

公共組合ノ消滅

公共組合ハ組合員ニ依リ構成セラルルモノナルヲ以テ組合員全部欠缺シ又ハ組合員一人ト爲レル場合ニ於テハ當然消滅スヘク、公共組合ノ目的カ完了シ又ハ遂行不能トナリタル場合亦同シ。而モ公共組合消滅ノ主ナル原因ハ卽チ解散ニシテ解散ニハ組合員ノ意思ニ基クモノト國家其ノ他ノ監督者ノ處分ニ基クモノトアリ。前者ヲ任意解散、後者ヲ强制解散ト謂フ。强制組合ヲ除キ公共組合ハ原則トシテ任意解散ヲ認メラレ、其ノ議決機關ニ於テ之ヲ議決ス但シ此ノ解散ノ議決ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ要ス。强制解散ニ付テハ組合ノ存在カ公益上認容スヘカラサル場合ニ行ハルルモノニシテ法律ハ其ノ事由ヲ明定ス。

以下各種ノ公共組合ニ付簡單ニ一言スヘシ。

水利組合及其ノ聯合會

第二 土地ニ關スル公共組合

(一) 水利組合及其ノ聯合會　水利組合ハ水利組合法(明治四十一年法律第五十號)ニ基キ水利土木ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ地方團體ノ事業ト爲スヲ得サル場合ニ於テ是等ノ事業ノ爲ニ一定ノ地域内ニ於ケル土地所有者又ハ土地所有者及家屋所有者ヲ以テ組織スル强制組合ナリ。其ノ目的カ灌漑排水ニ關スル事業ヲ目的トスルヤ又ハ水害防禦ニ關スル事業ヲ目的トスルヤニ依リ普通水利組合ト水害豫防組合トニ分ツ。而シテ水利組合ノ設立ニ付テハ府縣知事ニ於テ組合區域ヲ指定シ、關係市町村長中ノ一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘク、創立委員ハ組合規約案ヲ作リ關係者ノ總會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ玆ニ組合成立ス但シ普通水利組合ニ付テハ組合員タルヘキ者五人以上ノ申請又ハ關係地方町村長ノ具申アル場合ニ非サレハ府縣知事ハ組合ノ設立ヲ爲スモノニ非ス。次ニ水利組合ノ主ナル機關ヲ組合會及組合管理者ノ二トシ、特別ノ事情アルトキハ知事ニ於テ組合會ヲ設ケス組合總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ヘク、組合管理者ハ知事ニ於テ關係市町村長中ノ一人ヲ指定スルヲ原則トシ、必要ニ依リ官吏ヲシテ之ニ充テシムルヲ得。次ニ水利組合ハ其ノ目的タル事業ノ範圍内ニ於テハ略市町村ト同樣ノ權能ヲ有スモノトシ、就中非常災害ノ爲必要アル場合ニ於テハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使用シ若ハ收用スルノ權ヲ認メラレ特ニ水害豫防組合ニ

付テハ組合員以外ノ居住者ニ對シテモ夫役ヲ賦課シ又ハ出水危險ノ防禦ニ從事セシメ得ヘキ特權ヲ認メラルルト一般ニ水利組合ハ自ラ公ノ流水其ノ他ノ公物ヲ管理シ使用料ヲ徵收シテ其ノ使用權ヲ他人ニ特許シ得ヘキ特權ヲ認メラルルトハ最モ強キ權限ナリ。仍水利組合ハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ聯合會ヲ設クルコトヲ得ルモノトス。

北海道土功組合

(二) 北海道土功組合　北海道土功組合法（明治三十五年法律第十二號）ニ依リ認メラレ、略水利組合ト同樣ノ性質ヲ有シ唯其ノ目的ニ於テ單ニ水利事業ノミニ止マラスシテ農業上必要ナル道路、橋梁等ヲ施設維持スル事業ヲモ包含スル點ニ於テ特徵ヲ有ス。

耕地整理組合及其ノ聯合會

(三) 耕地整理組合及其ノ聯合會　耕地整理組合ハ耕地整理法（明治四十二年法律第三十號）ニ依リ認メラレ、耕地整理ノ施行ヲ目的トシ整理施行地域内ノ總テノ土地所有者ヲ組合員トスル半強制組合ナリ。其ノ目的ニ於テ特定ノ事業ノ遂行ノ爲ニスル一時的ノモノナルノ特徵ヲ有シ、其ノ權能ハ耕地整理事業ノ施行ニ限リ、道路其ノ他ノ公物ニ付一定ノ工事ヲ執行スルコトアリト雖モ公物ヲ管理シ使用料ヲ徵シテ使用ヲ特許スルカ如キ權能ハ之ヲ有セス。而シテ組合ノ爲シタル土地所有權ノ整理ニ付テハ關係者ハ異議ヲ述フルヲ得サルモノトシ、組合費徵收ニ付テハ組合ハ市町村ニ委託シ滯納處分ヲ行ヒ得ルノ特權ヲ有ス。尙耕地整理組合ハ其ノ協議ニ依リ地方長官ノ認可ヲ得テ聯合會ヲ設クルコトヲ得ルモノトス。

土地區劃整理組合

(四) 土地區劃整理組合　土地區劃整理組合ハ都市計畫法（大正八年法律第三十六號）ニ依リ認メラレ、都市計畫事業トシテ行ハルル土地ノ區劃整理ノ事業ヲ目的トスルモノニシテ大體ニ於テ耕地整理法ノ規定ヲ準用ス。

森林組合

(五) 森林組合　森林組合ハ森林法（明治四十年法律第四十三號）ニ依リ認メラレ、森林ノ經營ニ關スル事業ヲ共同ニスルカ爲ニ一定ノ地域内ニ於ケル森林所有者ヲ以テ組織スル半強制組合ナリ。

牧野組合

(六) 牧野組合　牧野組合ハ牧野法（昭和六年法律第三十七號）ニ依リ認メラレ、牧野即チ牛馬ノ生產飼育ノ爲放牧又ハ採草ヲ目的トスル土地ニ於テ放牧又ハ採草ヲ爲ス者カ牧野ノ維持改良ヲ圖ルカ爲ニ設立スル半強制組合ナリ。

第三　產業ニ關スル公共組合

商工會議所

(一) 商工會議所　商工會議所ハ商工會議所法(昭和二年法律第四十九號)ニ依リ認メラレ、商工業ノ改良發達ヲ目的トスルモノニシテ原則トシテハ市ノ區域内ニ於テ法律ノ定ムル一定ノ資格ヲ有スル帝國臣民又ハ法人ヲ以テ組織スル半強制組合ナリ。其ノ議決機關ハ議員總會トシ、其ノ執行機關ハ議員中ヨリ選擧セラレタル會頭トス。而シテ商工會議所ノ主ナル權限ヲ擧クレハ商工業ニ關スル通報、仲介及斡旋、行政廳ノ諮問ニ對スル答申、商工業ノ統計ノ調査及編纂、證明及鑑定、調停及仲裁、營造物ノ設置及管理、行政官廳ヨリ命セラレタル調査等之ナリ。尙内地ニ於ケル商工會議所ヲ日本商工會議所ヲ設立ス。

農會

(二) 農會　農會ハ農會法(大正十一年法律第四十號)ニ依リ認メラレ、農業ノ改良發達ヲ目的トスル半強制組合ニシテ其ノ中ニハ市町村農會、郡農會、道府縣農會及帝國農會ノ四種アリ。市町村農會ハ原則トシテ市町村内ニ於ケル總テノ耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ會員トシ、郡農會ハ郡内ノ町村農會、道府縣農會ハ道府縣内ニ於ケル總テノ市町村農會、帝國農會ハ内地ノ總テノ道府縣農會ヲ以テ會員トス。農會ノ議決機關ハ原則トシテ組合員總會ニシテ市町村

農會ニ在リテハ其ノ會員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ選擧シタル議員及行政官廳ヨリ命セラレタル特別議員ヲ以テ之ヲ組織スルモノトシ、其ノ執行機關ハ各農會ニ於テ選擧シタル會長ナリ。農會ノ權限ハ略商工會議所ニ類ス。

水產會

(三) 水產會　水產會ハ水產會法(大正十年法律第六十號)ニ依リ認メラレ、水產業ノ改良發達ヲ圖ルコトヲ目的トスル半强制組合ニシテ其ノ組織、權能等總テ農會ニ類ス。

同業組合

(四) 特殊ノ同業組合　抑モ同業組合トハ同一ノ營業ヲ經營スル者カ同業者間ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ勸メ其ノ弊害ヲ除クカ爲ニ組織スルモノヲ指シ、原則トシテハ單純ナル私法上ノ組合又ハ私法人ニ過キスト雖モ特殊ノ營業ニ付テハ其ノ國家的利害ニ重大ナル關係アルニ鑑ミ國家ハ之ヲ公共組合トシ一定ノ特權ヲ付與ス。而シテ此ノ種ニ屬スル公共組合ヲ擧示スルニ重要物產同業組合(明治三十三年法律第三十五號)ニ依ル重要物產同業組合及其ノ聯合會、畜產組合法(大正四年法律第一號)ニ依ル畜產組合及其ノ聯合會、漁業法(明治四十三年法律第五十八號)ニ依ル

漁業組合及其ノ聯合會竝水產組合及其ノ聯合會、外國領海水產組合法(明治三十五年法律第三十五號)ニ依ル外國領海水產組合及其ノ聯合會、茶業組合規則(明治二十年農商務省令第四號)ニ依ル茶業組合、蠶絲業組合法(昭和六年法律第二十四號)ニ依ル蠶絲業組合及其ノ聯合會竝日本中央蠶絲會、酒造組合法(明治三十八年法律第八號)ニ依ル酒造組合等卽チ之ニ屬スルナリ。

第四　醫業及保健ニ關スル公共組合竝居留民團

(一)　醫師會　醫師會ハ醫師法(明治三十九年法律第四十七號)及醫師會令(大正八年勅令第四百三十九號)ニ依リ認メラレ、醫事衞生ノ改良發達ヲ圖ルコトヲ目的トシ、其ノ中ニハ郡市區醫師會、道府縣醫師會及日本醫師會ノ三種アリ。郡市區醫師會ハ地區內ノ總テノ醫師ヲ會員トシ、道府縣醫師會ハ地區內ノ總テノ郡市區醫師會ヲ會員トスルモノニシテ全國ノ道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得ルモノトス。醫師會ノ權能ハ行政廳ニ建議シ、其ノ諮問ニ答ヘ、醫事衞生ノ研究及施設ヲ爲ス等略商工會議所ニ類ス但シ經費ニ付强制徵收權ハ之ヲ有セス。

(二)　齒科醫師會　齒科醫師會ハ齒科醫師法(明治三十九年法律第四十八號)及齒科醫師會令(大正八年勅令第四百三十八號)ニ依リ認メラレ、之カ組織、權能其ノ他總テ醫師會ニ類ス。

(三)　獸醫師會　獸醫師會ハ獸醫師法(大正十五年法律第五十三號)及獸醫師會令(昭和二年勅令第七十五號)ニ依リ認メラレ、獸醫事衞生ノ改良發達ヲ圖ルコトヲ目的トシ道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ノ二種アリ。

(四)　藥劑師會　藥劑師會ハ藥劑師法(大正十四年法律第四十四號)及藥劑師會令(大正十五年勅令第十七號)ニ依リ認メラレ、藥事衞生ノ改良發達ヲ圖ルヲ目的トシ、道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ノ二種アリ。

(五)　健康保險組合　健康保險組合ハ健康保險法(大正十一年法律第七十號)ニ依リ認メラレ、同法ノ保險關係ニ於テ保險者タルコトヲ目的トシ、事業主ト其ノ事業ニ使用セラルル勞働者卽チ被保險者タルヘキ者トヲ以テ之ヲ組織スル公共組合ニシテ被保險者五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シテハ主務大臣ヨリ其ノ設立ヲ命スルコトヲ得ルモノトス。

(六)　居留民團　居留民團ハ居留民團法(明治三十八年法律第四十一號)ニ依リ認メ

ラルル公法人ニシテ居留地ニ在ル帝國臣民ノ全部ヲ以テ構成シ、帝國臣民ハ其ノ地區内ニ入ルコトニ因リ當然構成員ト爲ルモノトシ、一般公共ノ利益ヲ圖ルヲ目的トスルコト地方自治團體ニ類ス。

營造物法人

第五　營造物法人

營造物法人トハ特定ノ目的ノ爲ニ提供セラレタル財産ニ依リ組織セラルル公共團體ニシテ其ノ存立ノ目的ハ財産提供者ノ意思ニ基キ決セラルルモノナリ。營造物トハ國家又ハ地方團體ノ經營スル事業又ハ之ニ提供セラルル財産ヲ指稱シ、其ノ本來ノ性質ニ於テハ固ヨリ獨立シテ人格ヲ有スルモノニ非ス。而シテ是等ノ營造物タル財産ニ付獨立ノ人格ヲ認メムトスル所以ハ主トシテ該財産ノ提供者ノ意思ニ基キ一定ノ事業ノ爲ニ永ク之ヲ存在セシメムトスルカ爲ナリ。而モ國家又ハ地方團體ハ夫レ自身永遠ノ生命ヲ有スルカ故ニ其ノ經營スル事業ニ提供セラレタル財産ニ付別ニ獨立ノ人格ヲ認ムル必要殆ント存セス。從テ營造物法人トシテ認メラルル實例ハ僅ニ神宮及神社ヲ擧ケ得ルニ止マルモノトス。

神宮

神宮卽チ伊勢神宮ハ國家ノ宗廟ニシテ全國尊崇ノ對象タリ。法上財産權ノ主體トシテ獨立ニ收支ヲ行フ公法人タル性質ヲ有シ、其ノ祭祀、會計等ノ事務ヲ行フ爲神宮司廳ヲ置キ別ニ神宮造營及神寶裝束調進ノ爲ニ造神宮使廳、大麻曆ノ製造頒布及臣民奉賽ノ事ニ當ル爲ニ神宮神部署ヲ置ク。

神社ノ性質

次ニ神社トハ社殿ヲ作リ、境内地ヲ設ケ、神靈ヲ祭ル施設ニシテ神明ニ奉祀シ、祭典ヲ行ヒ一般崇敬ノ對象ト爲スヲ其ノ目的トス。抑モ神社ハ財産權ノ主體タル地位ヲ認メラレ（明治四十一年法律第二十三號）法人ノ性質ヲ有スルヲ以テ其ノ制度ハ本來法律ヲ以テ規定スヘキ理ナルモ未タ神社法ノ制定ナク概ネ内務省令ヲ以テ定メラルルニ過キス。而シテ省令ニ依レハ神社ノ創立ハ祭神ノ事績顯著ニシテ土地ノ情況、緣故等特別ノ事由アリ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要シ、神社ノ再興、復興亦同シク、神社ノ移轉、合併及廢止ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ要スルモノトス。總テ祭神ヲ決定シ若ハ變更シ又ハ神社名ヲ變更スルニハ行政官廳ノ許可ヲ要シ、神社ノ社格、祭神其ノ他ノ重要事項ハ地方長官ノ調製スル明細帳ニ登錄ス。

社格

次ニ神社ニハ官幣社、國幣社、府縣社、鄕社及村社竝別格官幣社及招魂社ノ社格アルヲ原則トシ、他ニ無格社アリ。社格ノ變更ハ由緒其ノ他特別ノ事情アル場合内

務大臣之ヲ詮議ス。例祭ニ當リ官幣社ハ皇室ヨリ、國幣社ハ國庫ヨリ、府縣社及鄉社ハ府縣ヨリ、村社ハ市町村ヨリ神饌幣帛料ヲ供進セラル。

氏子崇敬者

次ニ神社ニハ氏子及崇敬者アリ。氏子トハ一定ノ區域内ニ居住シ神社ヲ維持存續セシムヘキ地位ニ在ル者ヲ指シ、三名以上ノ總代人ヲ選擧シ又ハ選擧セラルルノ權ヲ有ス。崇敬者トハ當該神社ヲ崇敬シ繼續的ニ其ノ維持ニ當ルヘキ地位ニ在ル者ヲ指シ、氏子ナキトキハ之ニ代リ總代人ヲ選擧スル權利義務ヲ有ス。

社殿境内地

次ニ神社ハ營造物法人トシテ社殿及境内地ナル物的施設ノ存在ヲ必要トシ、社殿ハ更ニ本殿ト拜殿トニ分レ、境内地ハ營造物トシテノ特權ヲ行使シ得ル區域ヲ劃シ、必シモ神社ノ所有ニ屬スルヲ要セサルモ之カ設定及增減ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ要ス。境内地ニ付テハ神社ハ一定ノ管理權ヲ有スルモ古墳其ノ他ノ發掘、木竹ノ伐採、碑表形像ノ建設、車馬ノ乘入又ハ魚鳥ノ捕獲ノ禁止等ニ關シテハ一定ノ制限ヲ受ク。尚神社ハ其ノ目的ニ鑑ミ一般ノ參拜ヲ許スヘク其ノ爲料金ヲ徵收スルヲ許サス但シ祭神ノ靈代ハ公衆ノ參觀ヲ許スモノニ非ス。

神職

而シテ神社ノ機關タル神職ハ國家ノ任命スル所ニシテ判任、奏任又ハ勅任ノ待遇ヲ與ヘラルルモノナリト雖モ官吏タル實質ヲ有スルモノニ非ス。

神社ノ財政

終ニ神社ノ財産ニ屬スル不動産及寶物ニ付テハ地方官廳保管ノ臺帳ニ登錄スヘキモノトシ、登錄財産ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ擔保ニ供シ又ハ處分ヲ爲シ得サルモノトス。神社ハ自己ノ基本財産ヲ維持シ、其ノ財産收入、賽錢、寄付金等ノ收入ニ依リ其ノ經費ヲ支辨スルモノトシ、神社ニ於テ負債ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス。

昭和五年四月十一日 初版印刷
昭和五年四月十五日 初版發行
昭和十年九月五日 訂正三版發行
昭和十四年七月五日 五版發行
昭和十六年四月十一日 改訂六版印刷
昭和十六年四月十五日 改訂六版發行

改訂 行政法大綱〔總論〕
(12) 定價金參圓五拾錢

著作者 野村信孝

發行者 東京市神田區神保町二丁目二番地 株式會社 巖松堂書店
代表者 波多野一

印刷者 東京市本郷區眞砂町三十六番地 龜谷良一

發兌元 東京市神田區神保町二丁目 巖松堂書店
電話九段(33)〔四一三五番 四一三六番 四一三七番 四一三八番〕
振替口座東京六五五六番

東京 日東印刷株式會社 本郷

600
80 D

306

600
80 р.